

渡辺信明展

watanabe nobuaki new paintings

2022年6月20日(月)ー7月2日(土)

1962年、滋賀県生まれ。

1988年、京都市立芸術大学大学院美術研究科修了

1987年、ギャラリー16 (京都) にて初個展を開催。以降、ギャラリーすずき (京都)、ギャラリー白 (大阪)、複眼ギャラリー (大阪)、ギャルリ・プス (東京)、テンバ・Aギャラリー (大阪)、2kwギャラリー (滋賀) 等で個展を開催。主なグループ展に1991年、現代美術'91-素材はいろいろ- (徳島県立近代美術館・徳島)、次代を担う作家展 (京都府立文化芸術会館・京都) にて優秀賞を受賞、1992年、筆跡の誘惑-モネ、栖鳳から現代まで- (京都市美術館・京都)。1994年、アート・ナウ'94-啓示と持続- (兵庫県立近代美術館・兵庫)。1996年、VOCA展'96現代美術の展望 (上野の森美術館・東京)。1999年、風の芸術展 (枕崎市文化資料センター・鹿児島) にて準大賞を受賞。

2001年、京展 (京都市美術館・京都) にて京展賞、京都市美術館賞 (コレクション賞) を受賞。2003年、吉原治良賞展 (大阪府立現代美術センター・大阪) にて優秀賞を受賞。2006年、京都市芸術新人賞受賞。2007年、“ダイアログ” コレクション活用術 vol.2 (滋賀県立近代美術館)。2008年、京都美術ビエンナーレ (京都府立文化博物館・京都)。2015年、Enk de kramer と渡辺信明 (Oギャラリー eyes・大阪)。2021年、ペインタリネス (ギャラリー白・大阪) 等多数出品。

“wind cloth” galleryhaku osaka 2022

風

布

ふうぷ

ギャラリー白

生活と隣り合わせの風景は、いつも絵と向き合う私の覚悟を揺さぶってくる。だから私はブレる気持ちを振りほどき、グリップを高め、又メツた筆致で描き出す。その没頭の行き先に、画面と身体の世界は少しづつ曖昧となり、やがてその両者のはざまに微かな風が吹きはじめ。

「風布」と書いて「ふうぷ」と読む。埼玉県大里郡寄居町に実在する地名である。絵の題名に造語で「風布 (かざぬの)」と考えているときに、この土地名と出逢った。その耳慣れない、どこかユーモラスな言葉の響きにも惹かれて作品タイトルとした。いつかこの場所を訪ねてみたいと思っている。